



学校体育通信 「やまぐちっ子元気維新」

第9号 H31(2019).1月

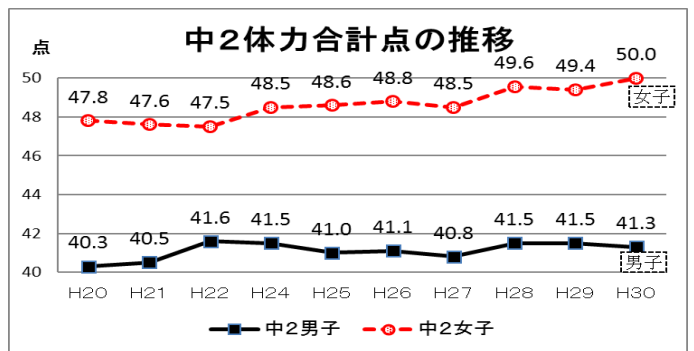
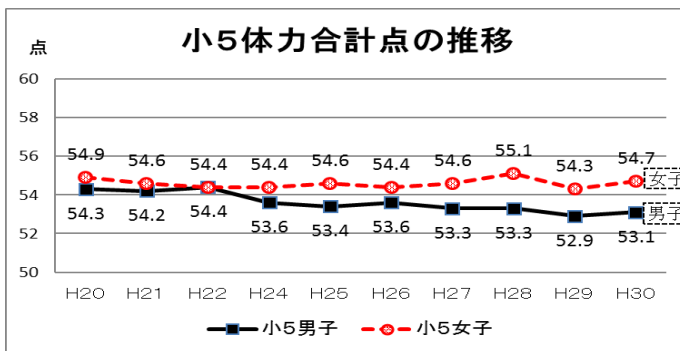
山口県教育庁学校安全・体育課 学校体育班

平成30年度全国体力・運動能力運動習慣等調査の結果について

スポーツ庁は、全国の子どもの体力等の状況について、本年度の調査結果を12月下旬に公表しました。この調査は、小学校5年生と中学校2年生を対象に、各校で4月～7月に実施された体力テストの結果を集計したものです。

■ 体力合計点※の推移

- 小5男子・女子、中2男子・女子の全ての調査対象で全国平均を下回りました。
- 本県の昨年度と比べると、小5男子・女子、中2女子は上回りました。
- 中2女子は過去最高値を記録しました。



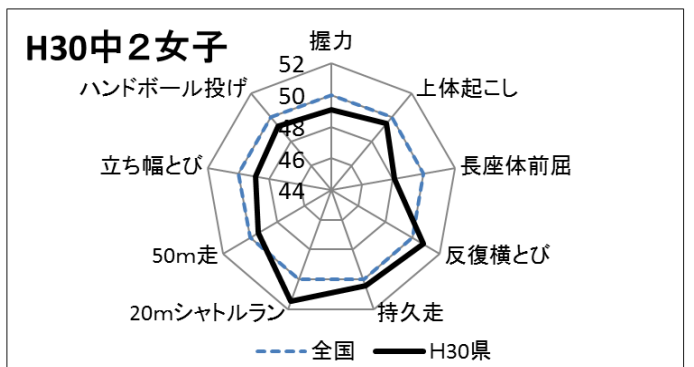
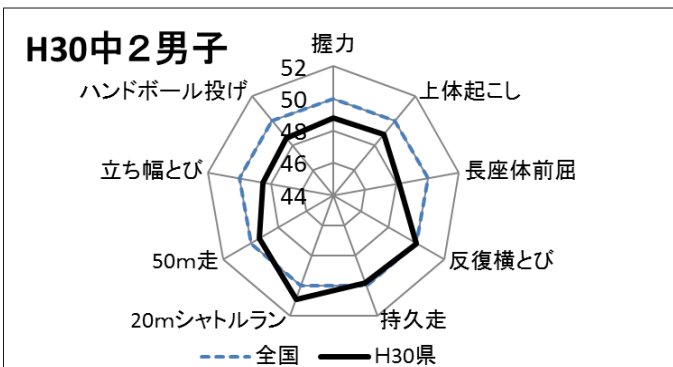
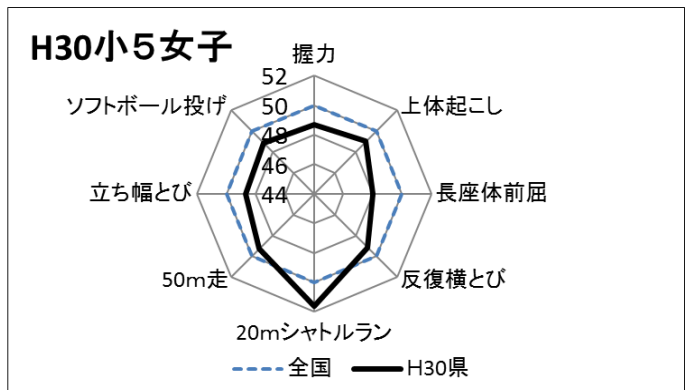
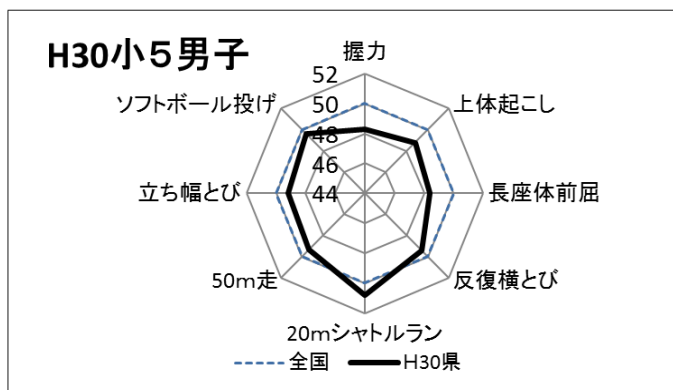
※体力合計点：「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」（文部科学省）の体力テスト8項目（握力、50m走など）の得点の合計点

■ 各調査項目（8種目）の全国平均値との比較

- 各調査項目では、全国平均を50として比べると、20mシャトルラン（持久力）は、全ての調査対象で上回りました。これまで同様、持久力に優れています。しかし、筋力、柔軟性等は下回っており、バランスのよい体力の向上に向けて課題が見られます。

多様な運動経験によって、体力要素のバランスのよい子どもの育成を！

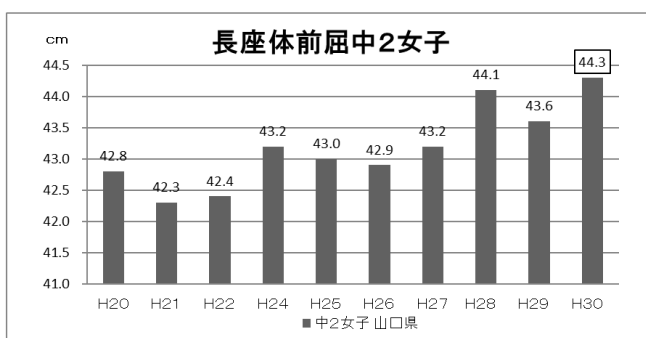
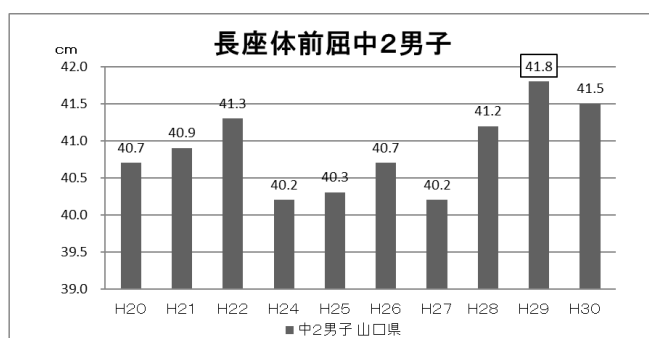
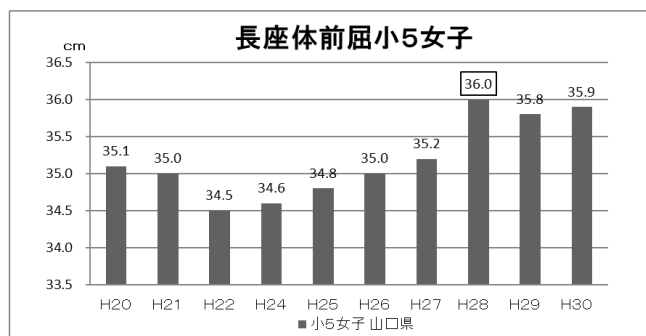
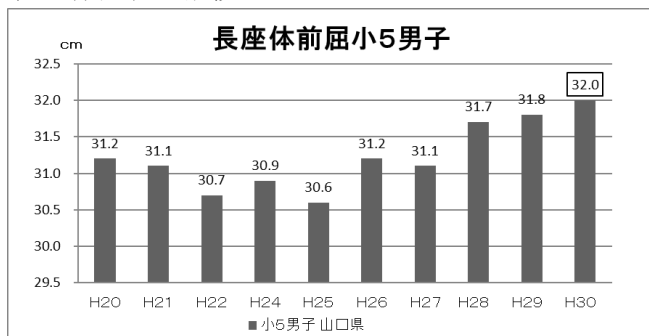
<全国平均値を「50」とした場合のレーダーチャート>



柔軟性向上の取組

これまで、本県の大きな課題であった柔軟性については、平成28年度から県内全公立小・中学校の共通課題として取り組んできました。その結果、柔軟性の指標である「長座体前屈」において、本県の昨年度の記録と比較して、小5男子、小5女子、中2女子が上回りました。また、小5男子、中2女子は過去最高値を記録し、小5女子、中2男子は過去2番目の記録となりました。

<長座体前屈の推移>



運動習慣等の結果

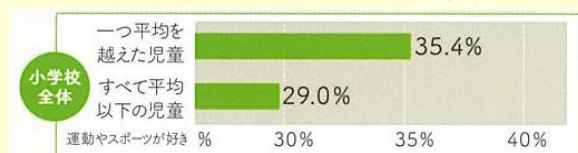
- 1週間の総運動時間はすべての調査対象で全国平均を上回りました。
- 中2女子においては、運動する子としない子のいわゆる運動習慣の二極化が見られます。(中2女子の1週間の総運動時間が60分未満の生徒は、16.8% (全国19.2%) もいます。)
- 運動が「好き」と考えている児童・生徒は、全国平均に比べ、多い傾向が見られます。

テスト項目で一つでも平均を超えている生徒は運動・スポーツが好きな傾向にある

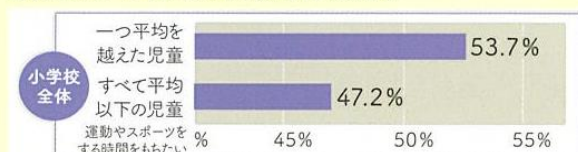
豊かなスポーツライフの実現には、児童・生徒が運動やスポーツの特性や魅力を実感できるようになることが求められています。今回の結果を見ると、体力合計点が低くても、一つでも得意な体力要素を持っていると、「運動やスポーツが好き」、「卒業後、自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたい」など、運動することに対して前向きである傾向がみられました。児童・生徒が得意な体力要素を一つでも二つでも持てるよう、今回の結果を学校では授業改善に活かし、家庭では興味関心の醸成に活かし、生涯にわたって、運動に親しむ態度を育成していくことが重要です。

【平成30年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査】

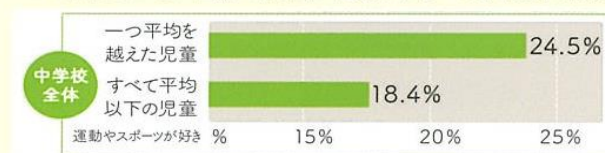
新体力テスト下位30%の児童のうち、テスト項目で一つ平均を超えた児童と一つも超えていない児童の「質問1 運動やスポーツが好き」の比較



新体力テスト下位30%の児童のうち、テスト項目で一つ平均を超えた児童と一つも超えていない児童の「質問5 中学に進んだら、授業以外でも自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたい」の比較



新体力テスト下位30%の生徒のうち、テスト項目で一つ平均を超えた生徒と一つも超えていない生徒の「質問1 運動やスポーツが好き」の比較



新体力テスト下位30%の生徒のうち、テスト項目で一つ平均を超えた生徒と一つも超えていない生徒の「質問4 中学校を卒業した後、自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたい」の比較

